

私たちは、自分一人で生きていくことはできません。常に他人と関わりながら生きています。そんな私たちの陥りやすいこと……。『法句経』に次のようなお釈迦さまの言葉があります。

「他人の過失は見やすいけれども、自己の過失は見がたい。人は他人の過失を糲殻のように吹き散らす。しかし自分の過失は隠してしまう。狡猾な賭博師が不利な骰の目を隠してしまうように。」

他人の間違いや欠点はどんなに小さくてもよく見えるけれども、自分のものは大きくてもみえないもの。他人のことは糲殻を吹き散らすように吹聴してしまうが、自分のことは、狡猾な賭博師が不利なサイコロの目を隠してしまうように見えなくしてしまうといった意味でしょう、いかがでしょうか。

ビジネスの世界では、常に競い合いながら成長してゆくものです。自社の製品やサービスが他社よりも優れていることをいかにわかりやすくアピールすることができるか。時にはネガティブキャンペーンとして他社のものの欠点をあげつらってイメージを落とすような宣伝や広告を行う場合もあります。もちろん、自社製品の欠点を表に出しては仕事になりません。ただ、見ている方からすると違いが際立ちわかりやすい反面、あまり度が過ぎると反感を買いかねません。

人の心は厄介なものです。他人の間違いや欠点を指摘することによって、自分は優れているとか、正しいとか、一時納得するのです。これではいけないと思っても、気がつけばまた…。お互いに欠点を指摘し合うことにより成長するという考えもありますが、間違いや欠点を指摘することから始まると往々にして他人の指摘を真摯に受け止めることができなくなります。

これらは、奢りの心からおこることです。自らを律して自らを見つめることでしか逃れることはできません。

自らを知り、他人の指摘を素直に聞ける自分になる。お釈迦さまのこの言葉を胸に刻んで行きたいものです。